

小渋ダムによる効果

【数字はすべて速報値】

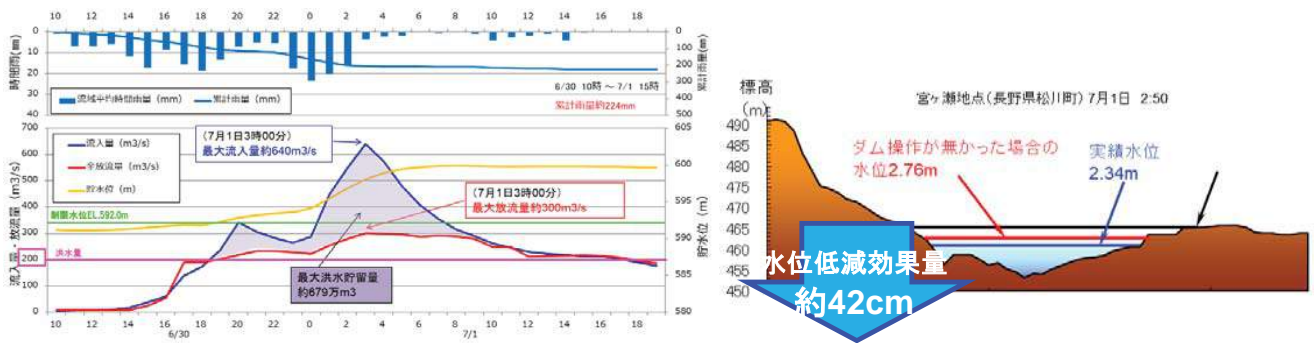
- 梅雨前線の影響により、6月30日から7月12日までの**総降水量は約782mm**を記録し、小渋ダムは6回の防災操作（洪水調節）を実施しました。
- 7月1日の出水は、小渋ダム管理開始以降（51年間）で**2番目**の流入量約640m³/sを記録し、7月11日の出水は、**5番目**の流入量約540m³/sを記録しました。
- 小渋ダムでの防災操作の実施により、ダムに水を貯留し、ダム操作がなかった場合と比較して、ダム下流の宮ヶ瀬（みやがせ）地点の水位は、7月11日に**最大で約48cm低下**したものと推定されます。



小渋ダムの防災操作一覧

発生年月日	最大流入量 (m ³ /s)	最大流入時全放流量 (m ³ /s)	最大貯留量 (千m ³)
7月1日	639.56	300.83	6,786
7月4日	208.66	195.84	80
7月6日	422.92	248.46	6,697
7月8日	468.30	252.37	3,367
7月11日(9時)	241.57	204.22	437
7月11日(21時)	534.51	276.11	2,180

7月1日 防災操作の状況及びダム下流における水位低減効果



7月11日 (21時) 防災操作の状況及びダム下流における水位低減効果

